

令和 7 年度

**事務の管理及び執行の状況についての
点検及び評価に関する報告書**

対象：第 3 期 高松市教育振興基本計画（令和 6 年度）

**令和 7 年 1 月
高松市教育委員会**

■ 目 次

◎ はじめに	1
1 趣旨	1
2 事務の管理及び執行状況についての点検及び評価の対象	1
3 点検及び評価の方法	1
4 教育に関し学識経験を有する者	1
5 報告	1
◎ 点検評価表	3
I 生きる力を育む学校教育の充実	
1 確かな学力と個性を伸ばす教育の推進	4
1-1 学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合（小学5年生）	5
1-2 学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合（中学2年生）	5
2-1 授業において、一人一台端末などのICT機器週3回以上活用している児童生徒の割合（小学6年生）	6
2-2 授業において、一人一台端末などのICT機器週3回以上活用している児童生徒の割合（中学3年生）	6
2 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進	8
3-1 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合（小学5年生）	9
3-2 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合（中学2年生）	9
4 児童が体育の授業以外で運動する時間（1日当たり）（小学5年生）	10
3 ふるさとの未来を支える教育の推進	12
5 投票することに前向きな生徒の割合（高校2年生）	13
6-1 今住んでいる地域について関心がある児童生徒の割合（小学5年生）	13
6-2 今住んでいる地域について関心がある児童生徒の割合（中学2年生）	14
II 安全・安心で魅力ある教育環境の充実	
1 学校教育環境の整備・充実	16
7 学校教育施設の老朽化対策進捗率	17
8 電子黒板の整備率	17
2 多様な教育ニーズに対応した教育機能の充実	18
9-1 授業において、個別の配慮が必要な児童生徒に対して特性に応じた指導を行っている学校の割合（小学校） ...	19
9-2 授業において、個別の配慮が必要な児童生徒に対して特性に応じた指導を行っている学校の割合（中学校） ...	19
10-1 90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている児童生徒の割合（小学生） ...	20
10-2 90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている児童生徒の割合（中学生） ...	20

3 教員の資質向上と教育指導体制の充実	22
11-1 教員が自らの専門性を高めるため、研修会等に定期的・継続的に参加している学校の割合（小学校）	23
11-2 教員が自らの専門性を高めるため、研修会等に定期的・継続的に参加している学校の割合（中学校）	23
12 教職員の年次休暇の平均年間取得日数.....	24
4 安全で安心な教育環境の充実	26
13-1 実践的な避難訓練を行っている学校の割合（小学校）	27
13-2 実践的な避難訓練を行っている学校の割合（中学校）	27

III 家庭・地域とともに育む教育力の向上

1 家庭・地域の教育力の向上	28
14 子ども会リーダー研修会に参加して、リーダーとしての自覚が高まった小学生の割合	29
15 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている小学校の割合	29
2 学校・家庭・地域の連携・協働の推進	30
16 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている小学校の割合【再掲】	31
17 地域と学校をつなぐ地域学校協働推進員（コーディネーター）を配置している小学校数.....	31
3 青少年の健全育成の推進	32
18 市民活動団体と健全育成団体が連携できた地域数（累計）	33
19 未就学児の保護者向け「安全・安心なネット利用」講座を受講した保護者の延べ人数	33

IV 生涯にわたり心豊かに学べる環境づくり

1 多様な学習機会の充実	34
20 生涯学習センターとコミュニティセンターの講座の参加者数.....	35
21 生涯学習センターのデジタル化した講座等の開催割合.....	35
2 生涯学習施設・機能の充実	36
22 市民一人当たりの図書館資料の貸出冊数	37

◎ 項目（指標）一覧	39
-------------------------	----

◎ はじめに

1 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理執行状況について、自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表すること、また、その点検・評価に当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする旨が定められています。

そこで、高松市教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政の推進に資するため、第3期高松市教育振興基本計画の施策目標の達成状況について点検・評価を実施し、報告書にまとめました。

2 事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の対象

第3期高松市教育振興基本計画

3 点検及び評価の方法

① 「指標」の評価について

単年度ごとに設定した目標値に対する実績値の達成度で評価を行います。

評価	評価基準
5	「実績値」が「目標値」以上
4	「実績値」が「目標値」の90%～100%未満
3	「実績値」が「目標値」の75%～90%未満
2	「実績値」が「目標値」の60%～75%未満
1	「実績値」が「目標値」の60%未満

② 「施策の基本方向」の評価について

①で評価した「指標」を「施策の基本方向」ごとに合計し、その得点率で総合評価を行います。

(高松市行政評価基本方針と同様の手法により、総合評価を行っています。)

総合評価	得点率
A	80%～100%
B	60%～80%未満
C	～60%未満

4 教育に関し学識経験を有する者

点検評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する次の方から御意見をいただきました。

(敬称略。五十音順。)

氏名	所属等
辻 佳宏	高松市PTA連絡協議会 会長
柳澤 良明	香川大学教育学部 教授
山口 明乙香	高松大学発達科学部 教授

5 報告

報告書は、高松市教育委員会ホームページにおいて公表します。

◎ 点検評価表

基本目標 I 生きる力を育む学校教育の充実

<p>【施策の基本方向】</p> <p>1 確かな学力と個性を伸ばす教育の推進</p>	総合評価
<p>【具体的な施策の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 確かな学力の育成 (2) 外国語教育の推進 (3) ICTを活用した教育の推進 (4) 高等学校教育の充実 (5) 就学前教育の充実 	B

【施策の基本方向の指標】		評価
1-1	学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合（小学5年生）	4
1-2	学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合（中学2年生）	5
2-1	授業において、一人一台端末などのICT機器を週3回以上活用している児童生徒の割合（小学6年生）	3
2-2	授業において、一人一台端末などのICT機器を週3回以上活用している児童生徒の割合（中学3年生）	3

【学識経験者等の意見】

令和5年4月1日から施行されている子ども基本法の意見表明権に基づけば、中学校だけでなく、小学校においても、授業のみならず、児童会や学級活動において、安心して自分の意見を言うことができ、学級や学校という集団において自己が役割を果たしており、貢献しているという民主主義的な経験を数多く持つことが学校教育の重要な使命となる。また、ICTに関しては、単に回数等の量的な目標だけでなく、今後は、どのような使い方をしているかといった質的な面での検討も必要である。使われるべきところで使っていないのか、使う必要がなく使っていないのかについての吟味が必要である。

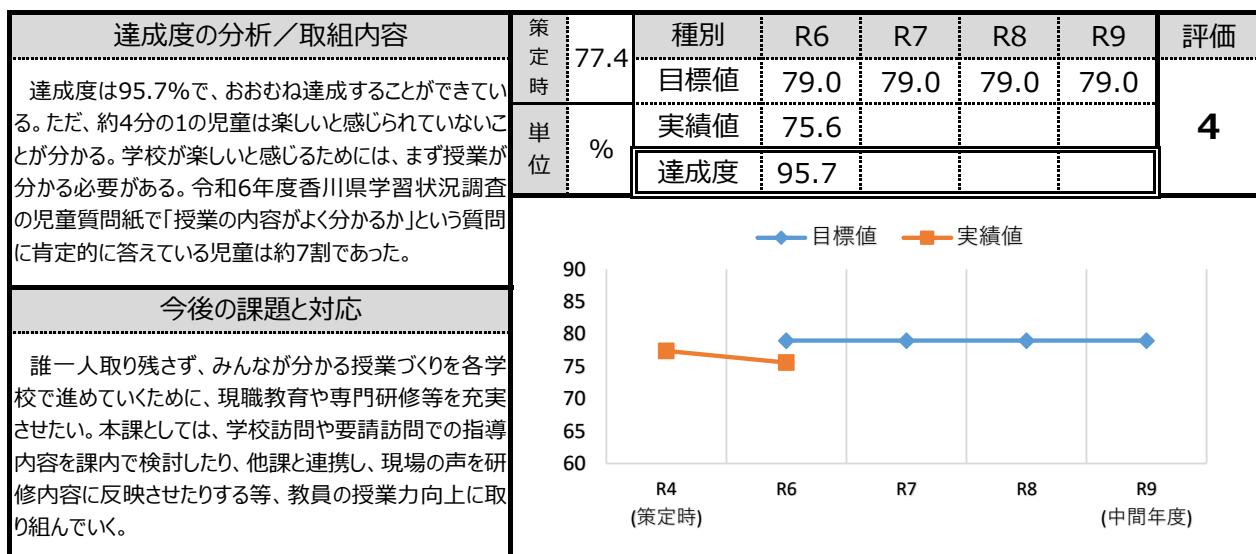
多様な学びの推進と児童生徒が成長を実感できる教育の実現が、今後、更に重要になる。学びの連続性を確保するためには、ICTの活用拡大と人的・物的資源の柔軟な調整が必要であり、教育環境や教員支援の一層の強化が期待される。

学習状況調査だけではなくどのような点が楽しいのか、更に調査・考察が必要である。同時に明確に「授業が楽しいから学校が楽しい」と思うことができる環境づくり授業づくりは、今後もしっかり取り組んでいただきたい。更に言えば自分で考え、自分の言葉で伝え、自分の意思で行動する「主体性」を育み「主体性」を発揮できるような学びの場であれば更に「楽しく」感じるのではないかと考える。

ICT機器を授業の補完のために使用するだけでなく、プログラミング等の専門特化を強め、身の回りのシステム構造を理解し、テクノロジーの進化を受け止め、味方につけ、課題解決に向けた探求心を育んでいただきたい。

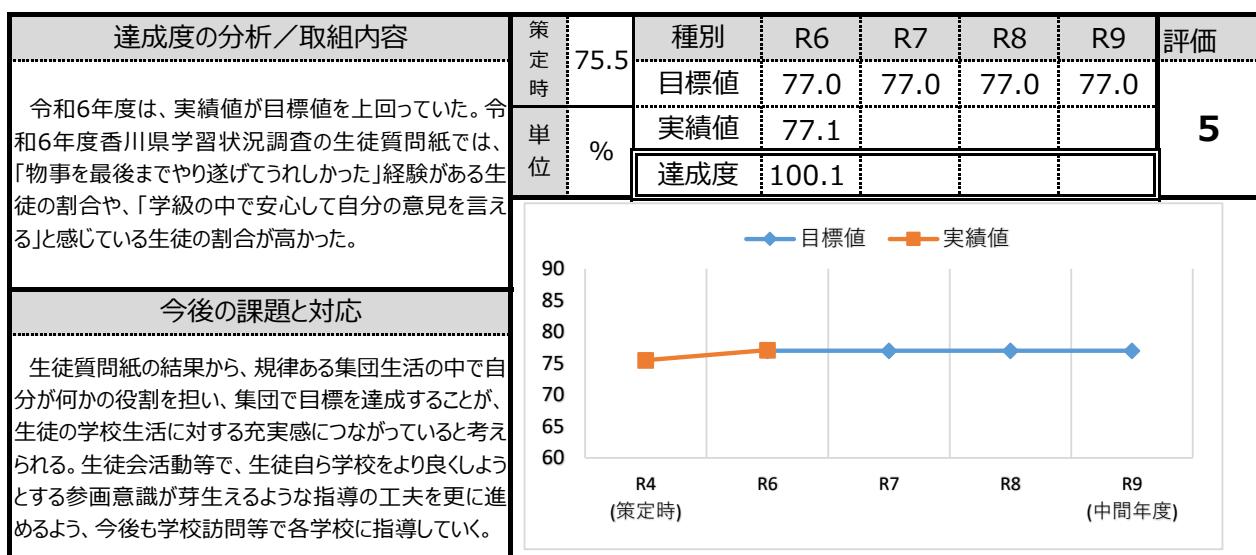
1-1	指標	学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合（小学5年生）
-----	----	-----------------------------

指標の説明	香川県学習状況調査において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」との質問に、「思う」又は「どちらかといえば思う」と回答した児童生徒の割合
担当課	学校教育課



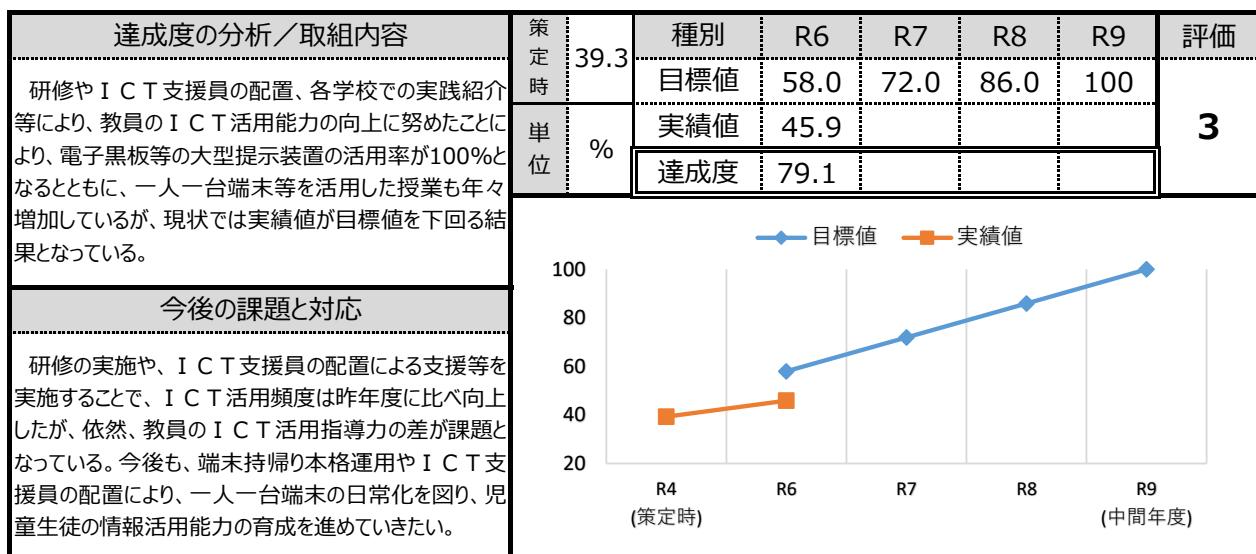
1-2	指標	学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合（中学2年生）
-----	----	-----------------------------

指標の説明	香川県学習状況調査において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」との質問に、「思う」又は「どちらかといえば思う」と回答した児童生徒の割合
担当課	学校教育課



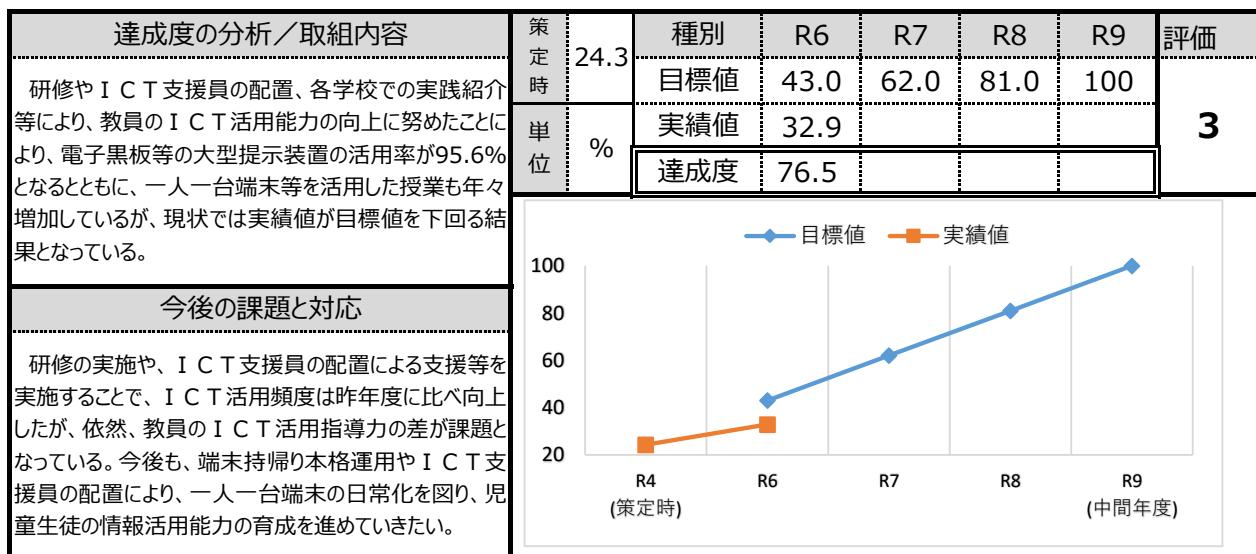
2-1	指標	授業において、一人一台端末などのICT機器を週3回以上活用している児童生徒の割合（小学校6年生）
-----	----	--

指標の説明	全国学力・学習状況調査において、「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」との質問に、「ほぼ毎日」又は「週3回以上」活用していると回答した児童生徒の割合
担当課	ICT教育推進室



2-2	指標	授業において、一人一台端末などのICT機器を週3回以上活用している児童生徒の割合（中学校3年生）
-----	----	--

指標の説明	全国学力・学習状況調査において、「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」との質問に、「ほぼ毎日」又は「週3回以上」活用していると回答した児童生徒の割合
担当課	ICT教育推進室



基本目標 I 生きる力を育む学校教育の充実

【施策の基本方向】 2 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進	総合評価
【具体的な施策の展開】 (1) 道徳教育の推進 (2) 人権教育の推進 (3) 読書活動の推進 (4) 体力づくりと健康教育の推進 (5) 食育の推進 (6) 豊かな感性と情操の育成	A

【施策の基本方向の指標】		評価
3-1	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合（小学5年生）	4
3-2	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合（中学2年生）	5
4	児童が体育の授業以外で運動する時間（1日当たり）（小学5年生）	4

【学識経験者等の意見】

「人の気持ちが分かる」ということも確かに重要ではあるが、勝手に人の気持ちを推し量る、察する人間になりたい、というのであれば、この目標自体の吟味が必要になる。目標の前提として、察する力よりも、「お互いがしっかりと対話し、お互いの考えを理解し合える力」、シンパシーではなく、エンパシーの力を高めることが重要である。また、どのような形であっても、小学生、中学生、高校生の時期の体づくりは、例えば、根気強く探究活動に取り組むなど、すべての日常の活動の基礎になる。ハードな運動でなくても構わない。体を動かす習慣づくりが求められる。

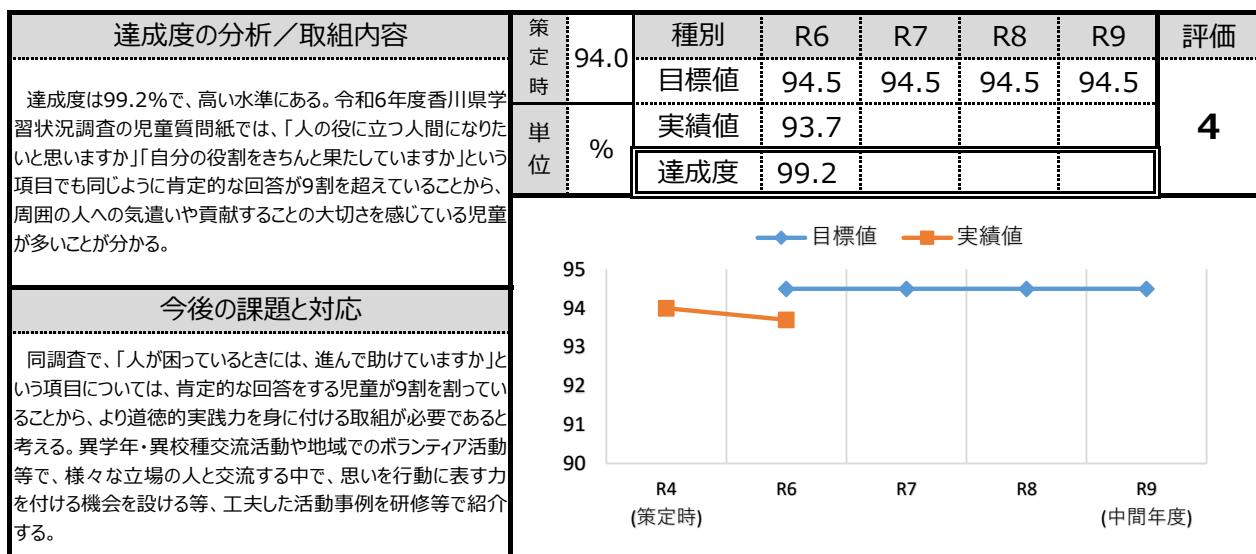
豊かな情操や道徳心、他者への思いやり、社会性を育むことは、児童生徒のみならず地域社会全体のウェルビーイング向上にも寄与する重要な取組である。

「人の気持ちが分かる」ようになるためにも「人の気持ちを考えようとする気持ち」が大切であると思われる。

児童生徒の運動時間については、放課後児童クラブ等と連携し、放課後に運動場で遊ぶ機会を増やす等、増加させるための取組を検討いただきたい。

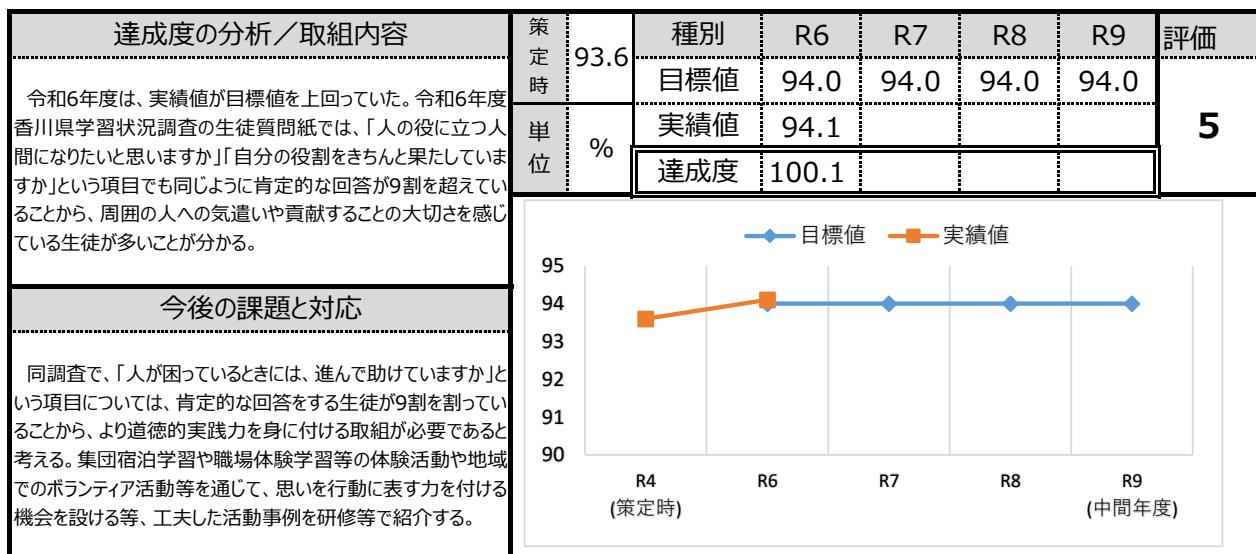
3-1	指標	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合（小学5年生）
-----	----	-----------------------------------

指標の説明	香川県学習状況調査において、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」との質問に、「思う」又は「どちらかといえば思う」と回答した児童生徒の割合
担当課	学校教育課・人権教育課



3-2	指標	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合（中学2年生）
-----	----	-----------------------------------

指標の説明	香川県学習状況調査において、「人の気持ちが分かる人間になりましたか」との質問に、「思う」又は「どちらかといえば思う」と回答した児童生徒の割合
担当課	学校教育課・人権教育課



4	指標	児童が体育の授業以外で運動する時間（1日当たり）（小学5年生）
---	----	---------------------------------

指標の説明	全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「学校の体育の授業以外で、1日にどのくらいの時間、運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをしていますか」との質問に、運動やスポーツをしたと回答した児童の運動時間	
担当課	保健体育課	

達成度の分析／取組内容	策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価
			目標値	62	63	64	
今後の課題と対応	単位 分/日	実績値	57.1				4
		達成度	92.1				

授業の中で児童が体育好きになるような取組を実践しているが、放課後の時間のみでは時間、空間、仲間が限られるため、目標値を下回った。

児童が充実感や達成感を味わうことができる体育授業を目指し、各学校が作成する体力向上プランを推進するとともに、休み時間などの児童が学校にいる時間の活用推進を図り、授業以外の運動時間の確保につなげていく。

策定時	目標値 (分/日)	実績値 (分/日)
R4	62	57.1
R6	62	57.1
R7	62	62.0
R8	62	63.0
R9	62	65.5

(中間年度)

基本目標 I 生きる力を育む学校教育の充実

【施策の基本方向】 3 ふるさとの未来を支える教育の推進	総合評価
【具体的な施策の展開】 (1) キャリア教育の推進 (2) 主権者教育の推進 (3) シビックプライドを育む教育の推進 (4) グローバル人材の育成 (5) 環境教育の推進	A

【施策の基本方向の指標】		評価
5	投票することに前向きな生徒の割合（高校2年生）	5
6-1	今住んでいる地域について関心がある児童生徒の割合（小学5年生）	5
6-2	今住んでいる地域について関心がある児童生徒の割合（中学2年生）	4

【学識経験者等の意見】

主権者教育の根幹は、小学校からの学級活動やホームルーム活動、児童会活動や生徒会活動における意見表明権の行使や学校生活や地域の諸問題に関する問題解決や合意形成にある。例えば、総合的な学習の時間や総合的な探究の時間を活用して、探究活動の一環として、地域の諸問題の解決に児童・生徒が貢献できる機会を作ることなどが有効である。

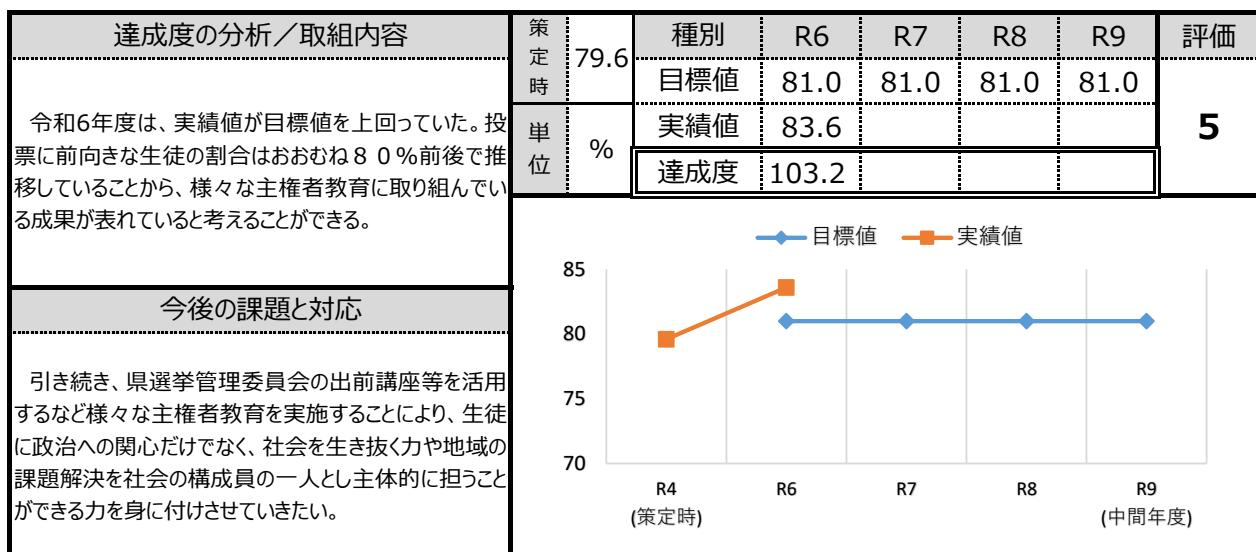
地域市民の一員としての自覚や地域の主権者の一人として、地域への関心を持ち、自らの活動と地域づくりを体感できる取組やその仕組みを充実させることは今後さらに重要になる。

投票することに前向きな生徒を増加させるためには、投票行動につながるための「政党別の理念や政策」の学習も必要であると思われる。

地域についての関心を高めるための取組として、歴史・自然・産業は当然ながら、地域を支える身近な地域の方々を知り、交流を深めることも大切である。

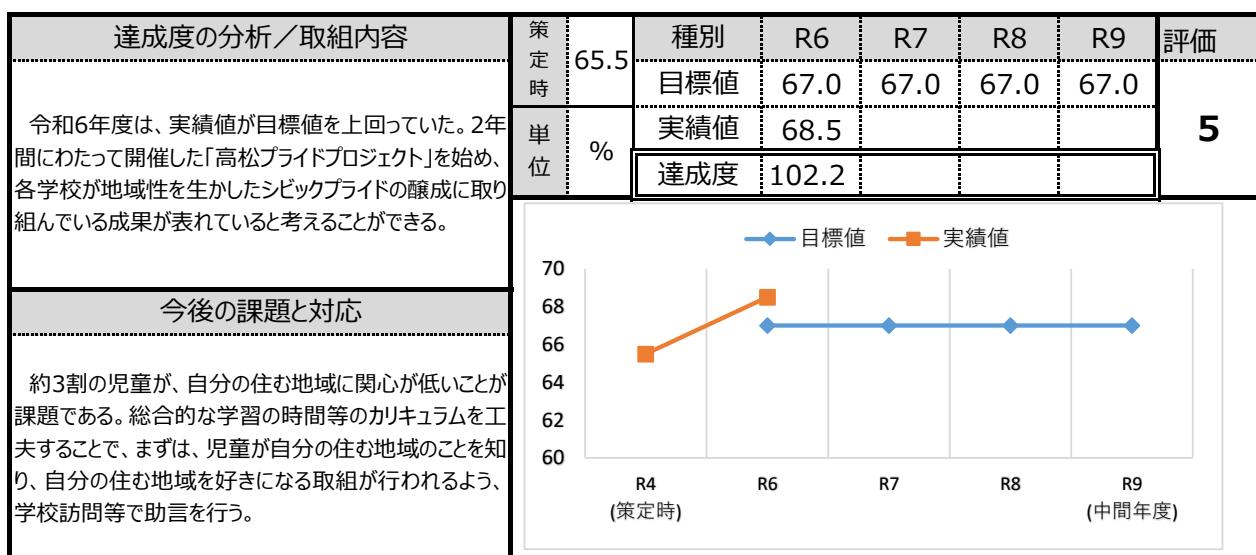
5	指標	投票することに前向きな生徒の割合（高校2年生）
---	----	-------------------------

指標の説明	出前授業における調査において、投票に「必ず行く」又は「行くつもり」と回答した生徒の割合（高校2年生）
担当課	高松第一高等学校



6-1	指標	今住んでいる地域について関心がある児童生徒の割合（小学5年生）
-----	----	---------------------------------

指標の説明	香川県学習状況調査において、「今住んでいる地域（香川県）の歴史や自然、産業について関心がありますか」との質問に、「ある」又は「どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合
担当課	学校教育課



6-2	指標	今住んでいる地域について関心がある児童生徒の割合（中学2年生）
-----	----	---------------------------------

指標の説明	香川県学習状況調査において、「今住んでいる地域（香川県）の歴史や自然、産業について関心がありますか」との質問に、「ある」又は「どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合
担当課	学校教育課

達成度の分析／取組内容		策定時 単位 %	種別 目標値 実績値 達成度	R6	R7	R8	R9	評価 4																	
達成度は93.5%であった。祭り等の地域行事に参加して、企画や運営に携わること等があれば、より自分の住む地域の良さ、独自の地域性等に目を向ける機会につながると考えられる。また、授業で地域に出ていく機会も小学校の時に比べて少なくなることも影響していると考えられる。				42.0	43.0	43.0	43.0																		
今後の課題と対応		<table border="1"> <caption>達成度の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>42.0%</td> <td>41.2%</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>42.0%</td> <td>40.2%</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>42.0%</td> <td>42.0%</td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td>42.0%</td> <td>42.5%</td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td>42.0%</td> <td>43.5%</td> </tr> </tbody> </table>						年度	目標値	実績値	R4	42.0%	41.2%	R6	42.0%	40.2%	R7	42.0%	42.0%	R8	42.0%	42.5%	R9	42.0%	43.5%
年度	目標値	実績値																							
R4	42.0%	41.2%																							
R6	42.0%	40.2%																							
R7	42.0%	42.0%																							
R8	42.0%	42.5%																							
R9	42.0%	43.5%																							
中学生の発達段階では、地域社会に参画していく力が求められているが、その機会を確保しにくいという課題がある。総合的な学習の時間や生徒会活動等を通して、地域の持続的な発展に貢献したいという気持ちを育てるこことや、実際に貢献する場を設定することができるよう、研修等で各学校に事例の紹介を行う。																									

基本目標 II 安全・安心で魅力ある教育環境の充実

【施策の基本方向】 1 学校教育環境の整備・充実	総合評価
【具体的な施策の展開】 (1) 学校教育施設の整備・充実 (2) ICT環境の整備・充実	A

【施策の基本方向の指標】		評価
7	学校教育施設の老朽化対策進捗率	5
8	電子黒板の整備率	5

【学識経験者等の意見】

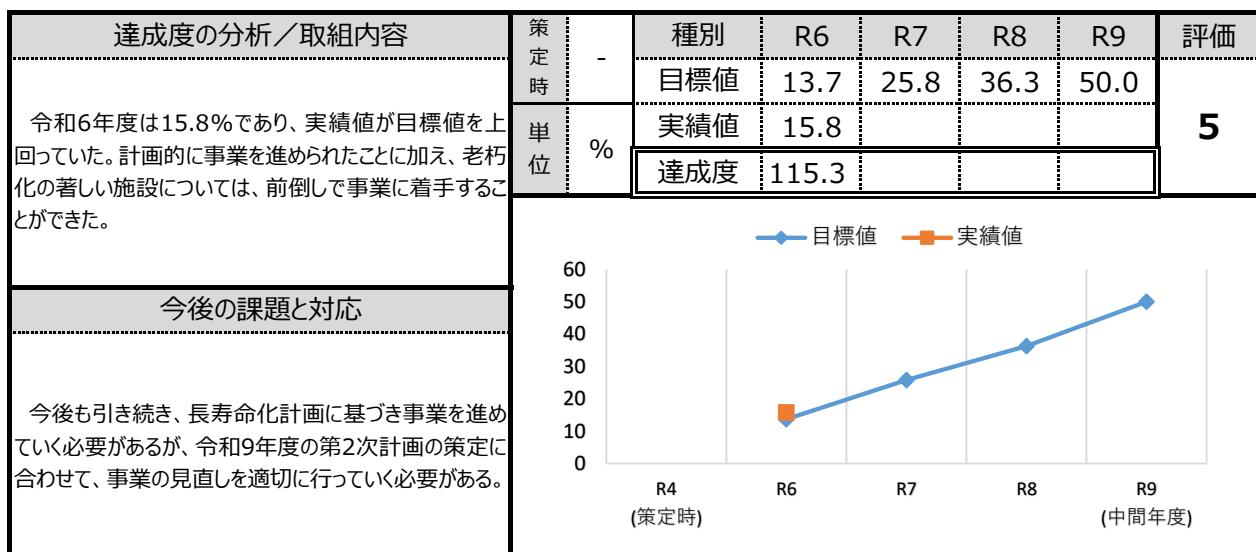
学校教育施設の老朽化対策は、予算を獲得し、早急に取り組む必要がある。電子黒板はすでに使用を奨励する段階を過ぎつつあり、今後、どのように活用するべきかを考える段階に入っていくため、その準備も必要である。実体験やリアリティのある経験が重要な意味を持つ小学生、中学生にとって、電子黒板やタブレットへの過度の依存についても配慮が必要である。

安心かつ安全な学校環境の整備及び充実は、学びの質の向上に資する基盤整備であり、老朽化対策やICT機器の整備などは重要な課題である。今後も年度目標の達成に向けた着実な取組が求められる。

子どもたちの安全安心を守ることは当然ながら、災害時に地域の避難所になることから老朽化対策は早急に進めていただきたい。

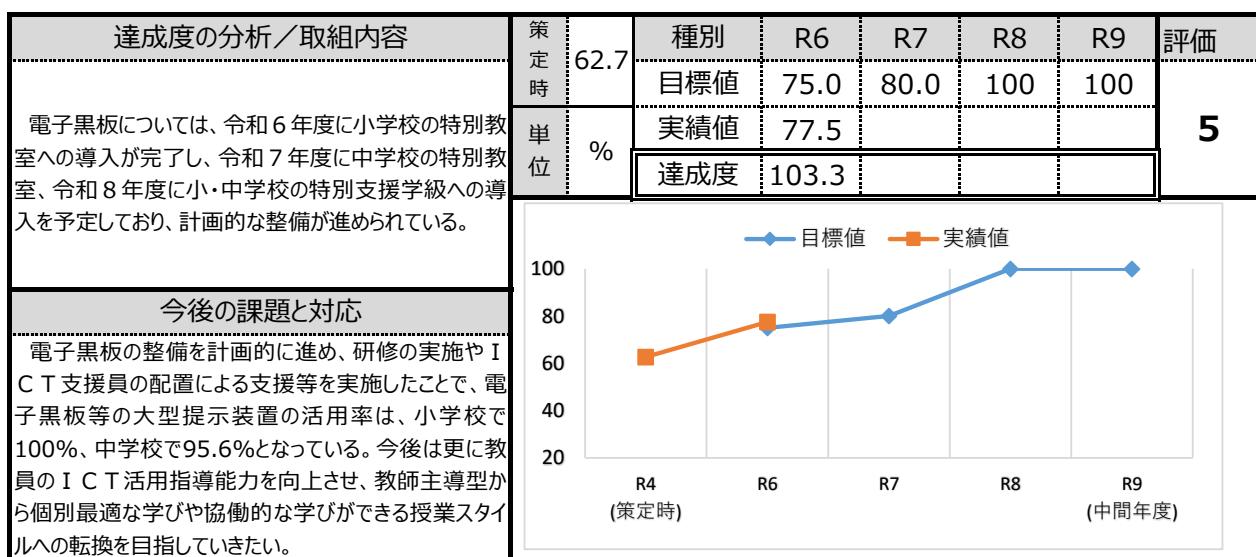
7	指標	学校教育施設の老朽化対策進捗率
---	----	-----------------

指標の説明	本計画期間（令和6～13年度）における学校施設長寿命化計画及び学校給食調理場整備計画に登載された事業の着手件数に係る進捗率
担当課	学校施設整備室・保健体育課



8	指標	電子黒板の整備率
---	----	----------

指標の説明	小・中学校における電子黒板を整備した普通教室（特別支援学級含む）及び特別教室（各校6室）の割合
担当課	ICT教育推進室



基本目標 II 安全・安心で魅力ある教育環境の充実

【施策の基本方向】 2 多様な教育ニーズに対応した教育機能の充実	総合評価
【具体的な施策の展開】 <ul style="list-style-type: none">(1) 特別支援教育の推進(2) いじめや暴力の未然防止(3) 不登校児童生徒への支援(4) 小・中学校等の連携・接続の推進(5) 就学支援の推進	A

【施策の基本方向の指標】		評価
9-1	授業において、個別の配慮が必要な児童生徒に対して特性に応じた指導を行っている学校の割合（小学校）	5
9-2	授業において、個別の配慮が必要な児童生徒に対して特性に応じた指導を行っている学校の割合（中学校）	5
10-1	90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている児童生徒の割合（小学生）	4
10-2	90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている児童生徒の割合（中学生）	3

【学識経験者等の意見】

多様なニーズをもつ児童生徒は増加傾向にあり、早期の対応や関係機関との連携が支援の質を左右する。現場が柔軟かつ即時的に対応できる仕組みやネットワークの形成が今後さらに重要になる。

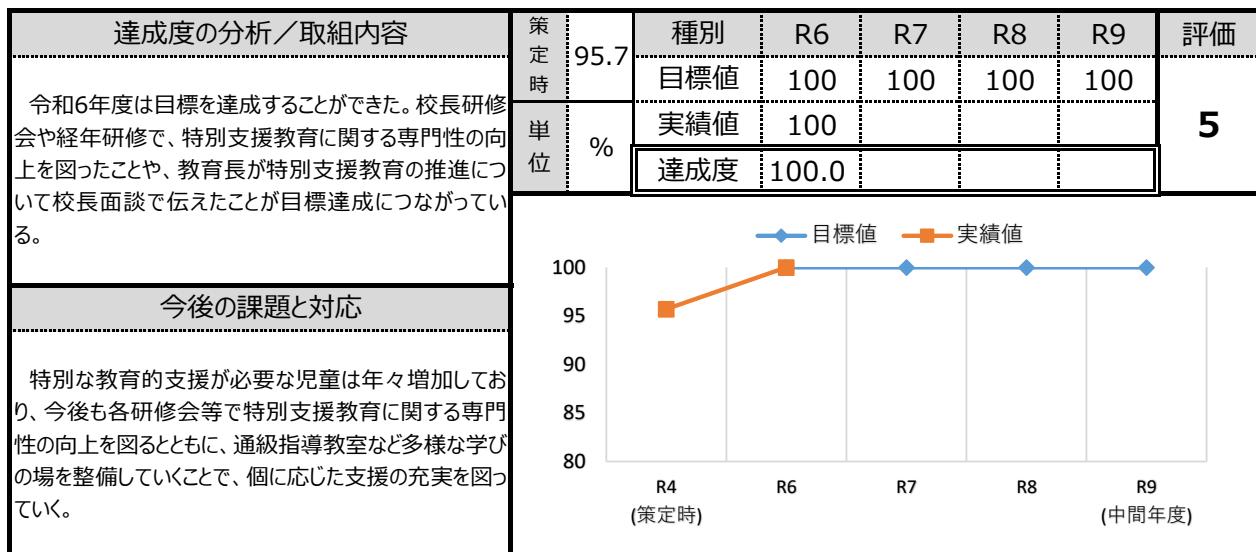
社会全体の雰囲気は「今の時代、無理して学校に行かなくても良い、学ぶ場所はどこでも良い」といったスタンスであると思うが、学校をあきらめてほしくない。学校を安全安心な場所、楽しい学びの場にするために、専門性を高め、多様な学び、個別最適な学びを提供していただきたい。

不登校児童生徒への対応については、多様かつ複雑なそれぞれの一歩を受け止め、背中を押せるように、大変な労力ではあるが、不登校の実情を細分化し、今を見る必要がある。また、教育政策であり福祉政策でもあるように思われる所以で、福祉との連携も必要である。

個別の配慮や不登校がいずれも増加傾向にある中で、今後も引き続き、増加していくことが想定される。教員研修等を通じた、教職員の子ども観、学校観、教育観などの「観」の転換が求められる。同時に、引き続き、十分な対応が実施できるよう、特別支援学校との連携や専門機関との連携を密にするための人的整備が不可欠である。

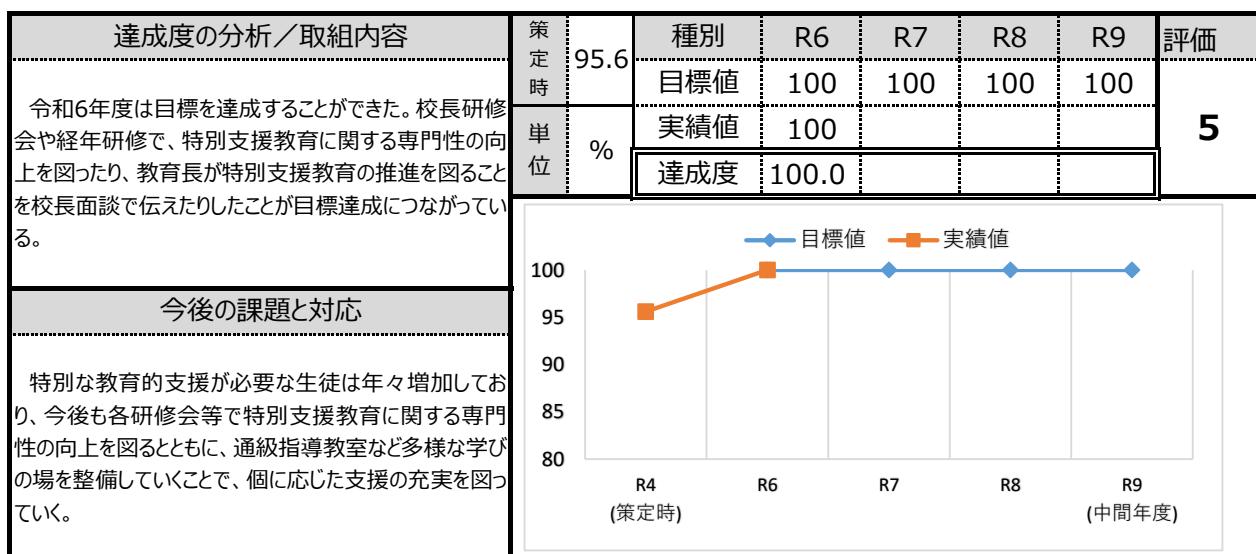
9-1	指標	授業において、個別の配慮が必要な児童生徒に対して特性に応じた指導を行っている学校の割合 (小学校)
-----	----	--

指標の説明	全国学力・学習状況調査において、「学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか」との質問に、「よく行った」又は「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合
担当課	総合教育センター



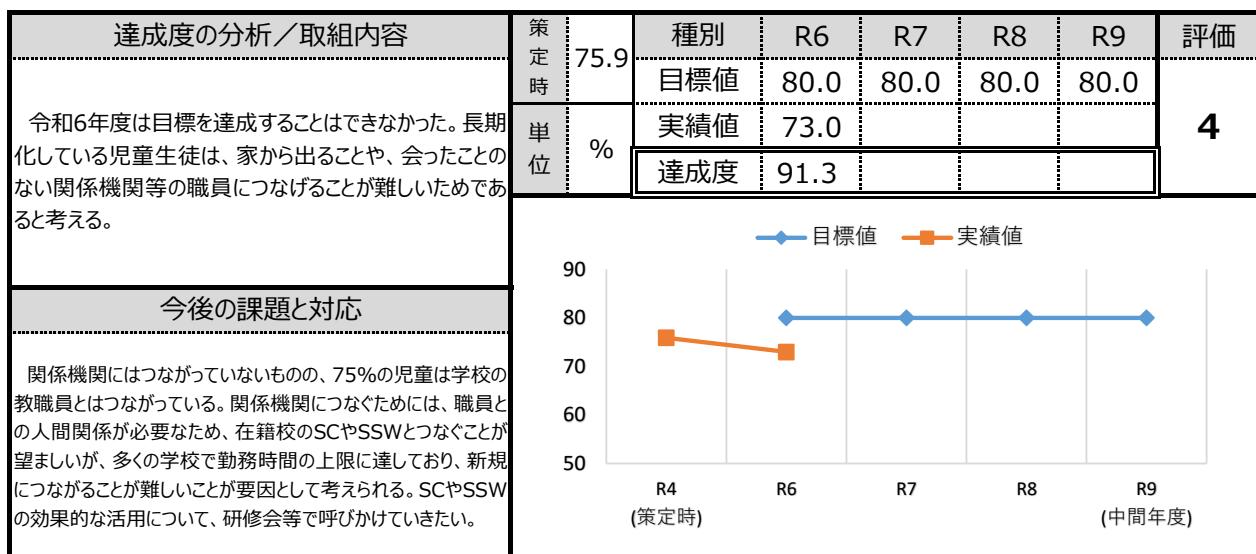
9-2	指標	授業において、個別の配慮が必要な児童生徒に対して特性に応じた指導を行っている学校の割合 (中学校)
-----	----	--

指標の説明	全国学力・学習状況調査において、「学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の生徒に対する授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか」との質問に、「よく行った」又は「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合
担当課	総合教育センター



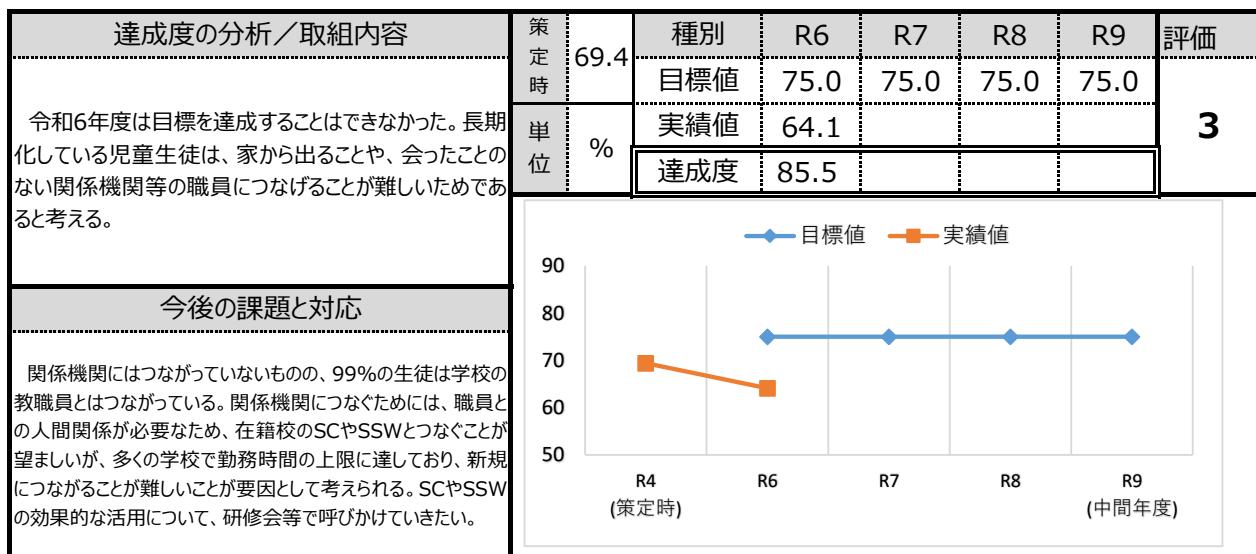
10-1	指標	90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている児童生徒の割合（小学生）
------	----	--

指標の説明	90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、学校内外の専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている児童の割合
担当課	総合教育センター



10-2	指標	90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている児童生徒の割合（中学生）
------	----	--

指標の説明	90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、学校内外の専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている生徒の割合
担当課	総合教育センター



基本目標 II 安全・安心で魅力ある教育環境の充実

<p>【施策の基本方向】</p> <p>3 教員の資質向上と教育指導体制の充実</p>	<p>総合評価</p>
<p>【具体的な施策の展開】</p> <p>(1) 教員の資質・能力の向上 (2) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A</p>

【施策の基本方向の指標】		評価
11-1	教員が自らの専門性を高めるため、研修会等に定期的・継続的に参加している学校の割合（小学校）	5
11-2	教員が自らの専門性を高めるため、研修会等に定期的・継続的に参加している学校の割合（中学校）	3
12	教職員の年次休暇の平均年間取得日数	5

【学識経験者等の意見】

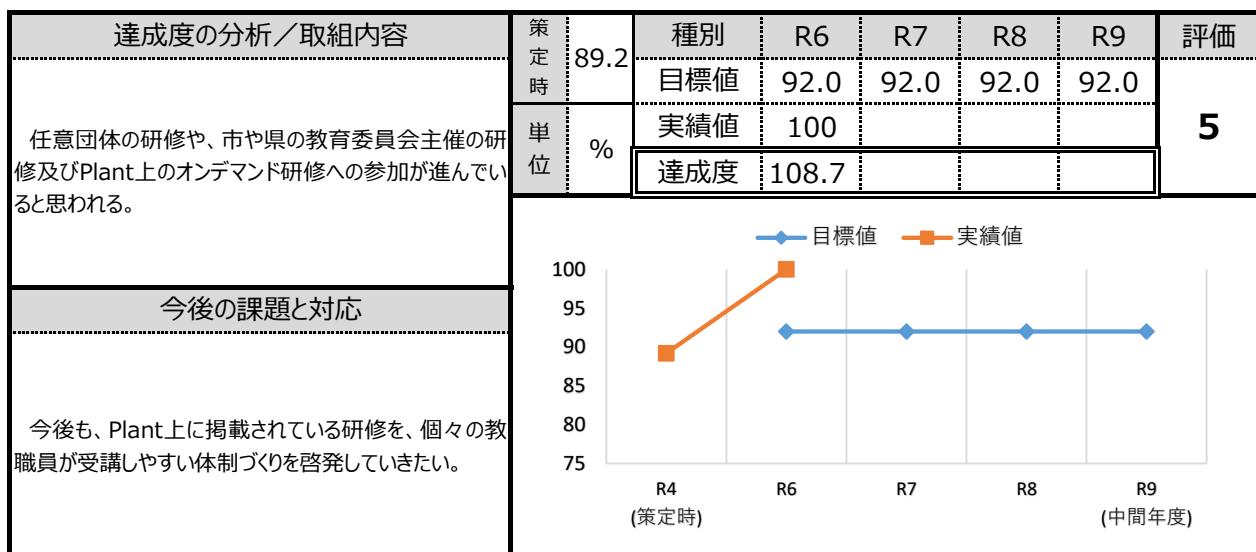
実績値には教員の業務負担や労務管理上の課題の影響も考えられる。教員が自らの専門性を高める楽しさを感じ、学びを日々の実践に生かせるような仕組みづくりが、生徒と教員双方のウェルビーイング向上に寄与する。

研修内容は、一方通行の講義ではなく、主体的で個別最適な学びの実現を目指し、対話と実践を中心に、より現場に近くリアルで伴走的な研修が望ましい。

教師の新たな学びの姿や研修観の転換が進められる中、教職員は自らの研修をカスタマイズすることが可能となっている。その根幹は県の教員育成指標に基づく、自己の現在の資質力量の正確な分析である。例えば、高松市でも使用できるようになっている、香川大学教職大学院が開発した1 on 1 対話アプリなどを数多くの校長先生が活用することで、教職員の資質力量の正確な分析を進めてほしい。

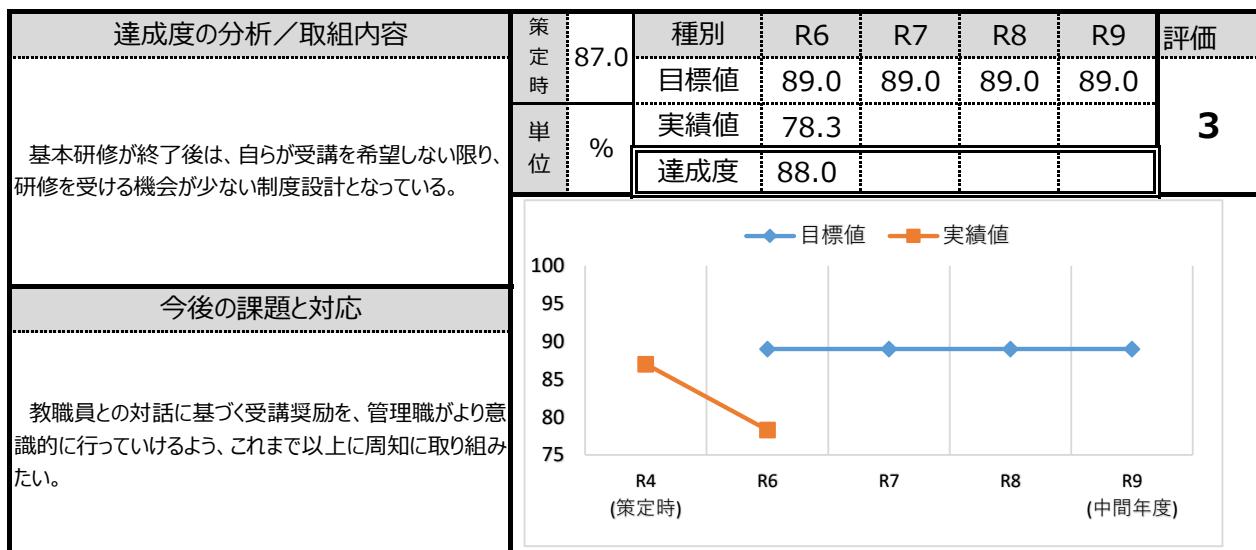
11-1	指標	教員が自らの専門性を高めるため、研修会等に定期的・継続的に参加している学校の割合（小学校）
------	----	---

指標の説明	全国学力・学習状況調査において、「個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研修会等に定期的・継続的に参加している（オンラインでの参加を含む）」との質問に、「よくしている」又は「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合
担当課	総合教育センター



11-2	指標	教員が自らの専門性を高めるため、研修会等に定期的・継続的に参加している学校の割合（中学校）
------	----	---

指標の説明	全国学力・学習状況調査において、「個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研修会等に定期的・継続的に参加している（オンラインでの参加を含む）」との質問に、「よくしている」又は「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合
担当課	総合教育センター



12	指標	教職員の年次休暇の平均年間取得日数
----	----	-------------------

指標の説明	小・中学校における教職員の年次休暇の平均年間取得日数
担当課	学校教育課

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価
指標としている教職員の年次休暇の平均年間取得日数は目標を達成することができた。長期休業期間中の年休等の休日を確保できる環境づくりは進んでいると思われる。	目標値							
今後の課題と対応	実績値	単位	日	実績値	達成度	目標値	実績値	5
本市の指針で定めた、時間外在校等時間を月45時間以内とする目標は達成できておらず、引き続き、働き方改革の実現に向けて取り組んでいきたい。	105.3							

目標値 実績値

策定時	目標値	実績値
R4	15.0	11.0
R6	15.0	16.0
R7	15.0	15.0
R8	15.0	15.0
R9	15.0	15.0

(中間年度)

基本目標 II 安全・安心で魅力ある教育環境の充実

【施策の基本方向】 4 安全で安心な教育環境の充実	総合評価
【具体的な施策の展開】 (1) 子どもの安全対策の推進 (2) 防災教育の推進	A

【施策の基本方向の指標】		評価
13-1	実践的な避難訓練を行っている学校の割合（小学校）	5
13-2	実践的な避難訓練を行っている学校の割合（中学校）	5

【学識経験者等の意見】

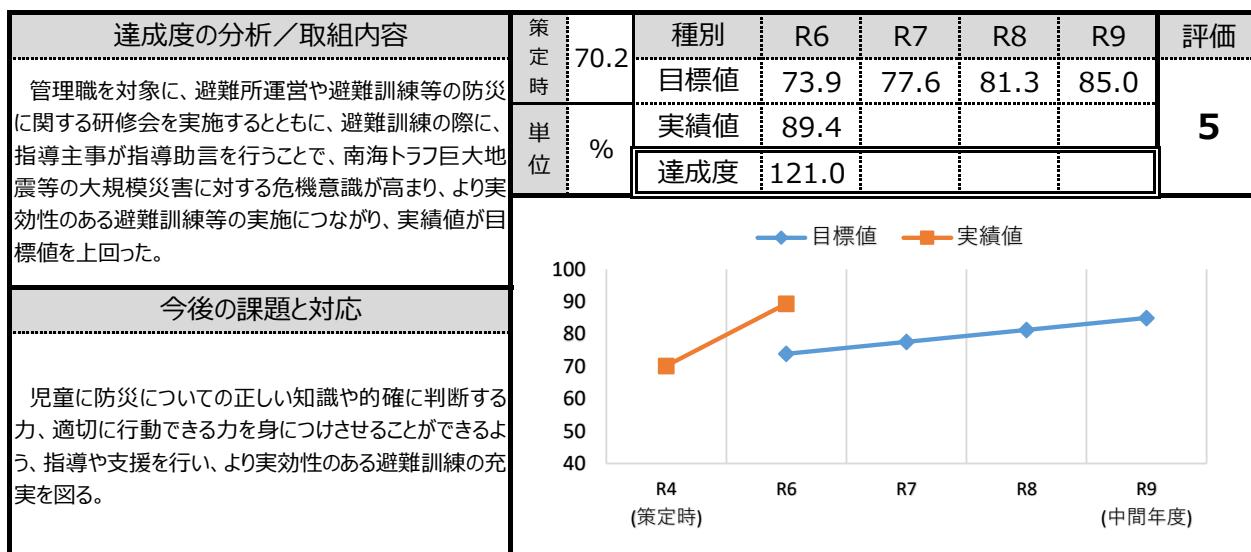
防災教育や実践的な防災行動につながる取組は必須であり、いざという場面の命を守る重要な取組である。今後は避難後の安心や安全の確保を視野にいれて、地域の避難所等との連携や合同訓練など、地域全体を巻き込む実践的な災害時の安全安心の確保につながる取組の強化が期待される。

実践的な避難訓練については、引き続き、子どもや教職員の皆様が、冷静かつ主体的に行動できる訓練を続けていただきたい。また地域の防災訓練等にも積極的参加を促していただきたい。

現在、香川大学教職大学院では、高松市の養護教諭が、緊急時に自分一人でどのような対応をすることが必要かをシミュレーションする研修（ソロ研修）、役割を決めずに数人のチームで緊急時の対応訓練をする研修（チーム研修）を開発しつつある。令和8年3月には研究結果がまとまるので、こうした研究成果をいかし、短時間で効率的に実施することができ、かつ高い効果が期待される研修に取り組むことが有効である。

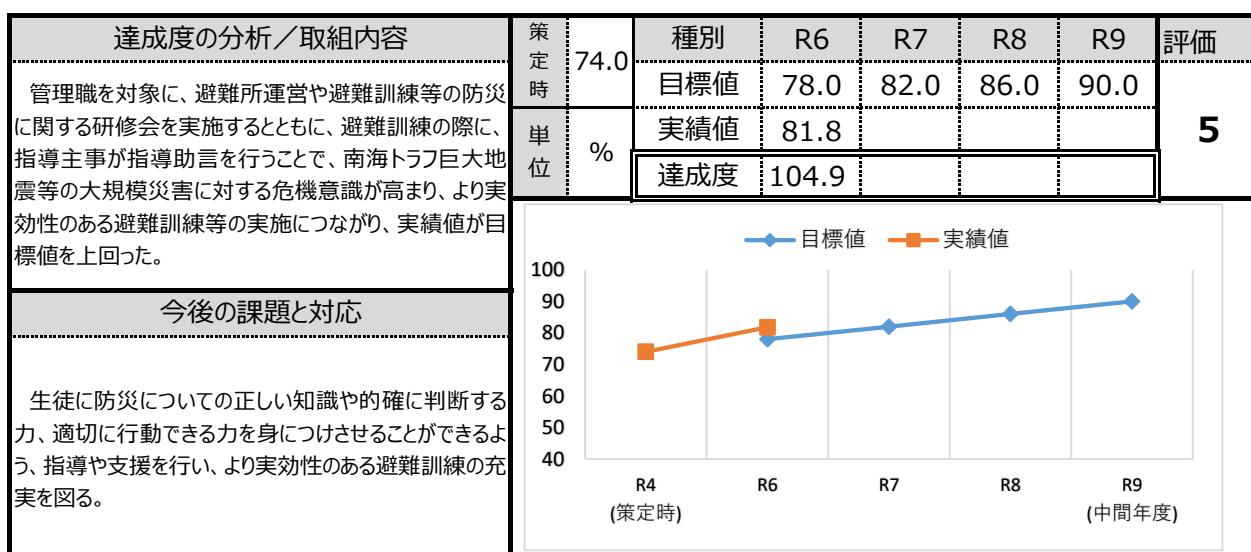
13-1	指標	実践的な避難訓練を行っている学校の割合（小学校）
------	----	--------------------------

指標の説明	地震に関する避難訓練の調査において、子どもや教職員が主体的に行動できる場面を想定した、訓練（※）を実施した学校の割合 ※避難ルートに障害物を設置して通行できない場面を設置したり、日時を告げずに訓練を実施するもの
担当課	保健体育課



13-2	指標	実践的な避難訓練を行っている学校の割合（中学校）
------	----	--------------------------

指標の説明	地震に関する避難訓練の調査において、子どもや教職員が主体的に行動できる場面を想定した、訓練（※）を実施した学校の割合 ※避難ルートに障害物を設置して通行できない場面を設置したり、日時を告げずに訓練を実施するもの
担当課	保健体育課



基本目標 III 家庭・地域とともに育む教育力の向上

【施策の基本方向】 1 家庭・地域の教育力の向上	総合評価
【具体的な施策の展開】 (1) 家庭の教育力の向上 (2) 地域の教育力の向上	B

【施策の基本方向の指標】		評価
14	子ども会リーダー研修会に参加して、リーダーとしての自覚が高まった小学生の割合	4
15	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている小学校の割合	2

【学識経験者等の意見】

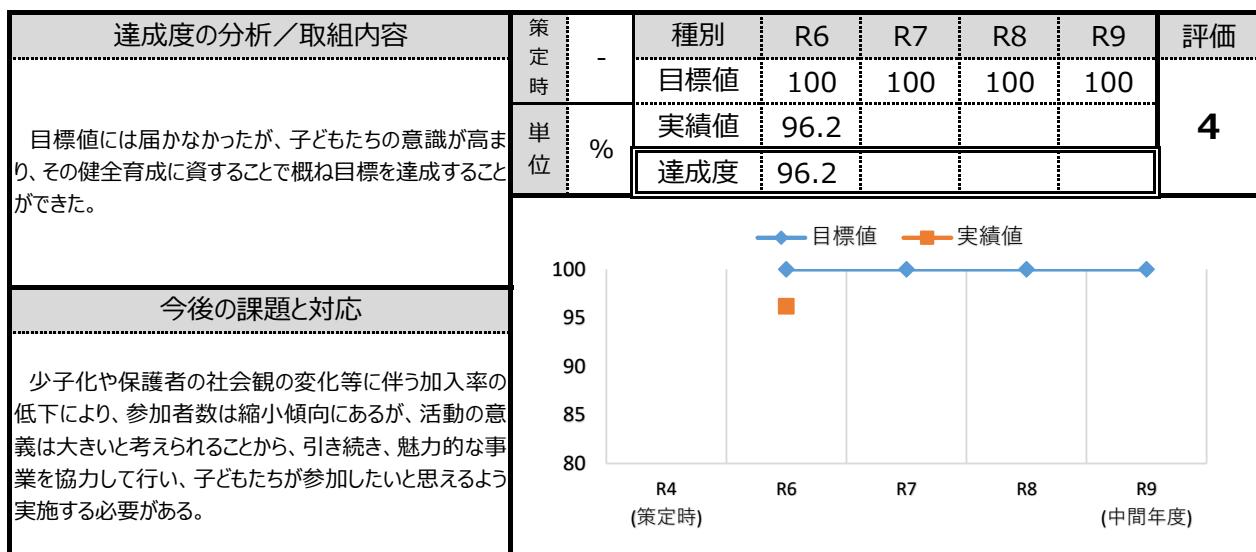
地域に開かれたコミュニティスクールとしての取組は、非常に重要であり、地域の主権者としての意識をもつ児童生徒の育成においても関連の高い取組である。今後の更なる柔軟かつ新たな取組が期待される。

学校は働き方をめぐる過渡期にあり、また、地域は高齢化が進行し、PTAは任意加入となり、個人の意思や環境を配慮したやり方に変わった。このような中、学校・家庭・地域が力をあわせ協働的に学校をサポートし、地域の教育力や安心安全を高めていく必要がある。しかしながら、一部の現場では協働とは逆に分断や拒絶が生まれている場面も見受けられる。一方で、学校・家庭・地域の三位が一体となり、活力があり前向きな活動ができるいる校区もあるので、その要因を調査・研究し、情報共有すべきである。そのためにも、キーパーソンであるコーディネーターの声を早急に拾い上げることが必要である。

児童会や生徒会と連携して、より多くの児童生徒がリーダーとしての経験を積むことが必要である。また、コミュニティスクールの活性化のためには、基本的なコミュニティスクールの機能に加えて、子どもたちのためにどのような活動をしたらよいかを具体的に考え実行することが不可欠である。小さな活動からで構ないので、まずは子どもたちが民主主義的な経験を積むことができる活動に取り組むことから始めることが必要である。

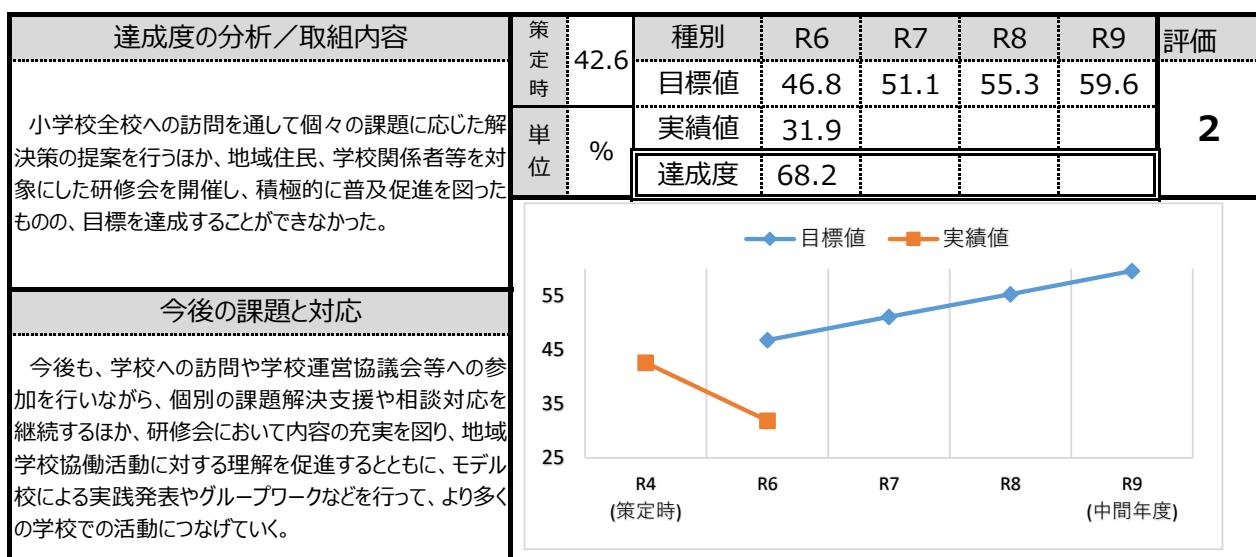
14	指標	子ども会リーダー研修会に参加して、リーダーとしての自覚が高まった小学生の割合
----	----	--

指標の説明	子ども会リーダー研修会における調査で、リーダーとしての自覚が「とても高まった」又は「少し高まった」と回答した小学生の割合
担当課	生涯学習課



15	指標	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている小学校の割合
----	----	---

指標の説明	香川県学習状況調査において、「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」との質問に、「よく行った」と回答した小学校の割合
担当課	学校教育課・生涯学習課



基本目標 III 家庭・地域とともに育む教育力の向上

【施策の基本方向】 2 学校・家庭・地域の連携・協働の推進	総合評価
【具体的な施策の展開】 (1) 地域とともにある学校づくりの推進 (2) 学校を核とした地域づくりの推進	B

【施策の基本方向の指標】	評価
16 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている小学校の割合【再掲】	2
17 地域と学校をつなぐ地域学校協働活動推進員（コーディネーター）を配置している小学校数	5

【学識経験者等の意見】

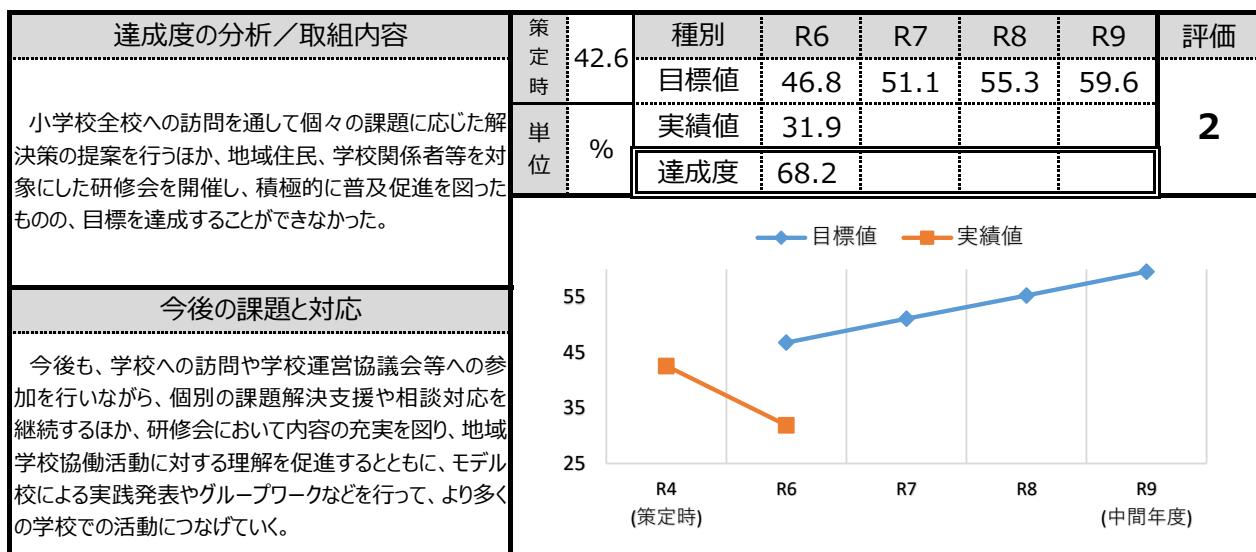
学校は教職員の働き方をめぐる過渡期にあり、他団体と協働して活動する余裕がなく、負担の増加につながると捉える学校や、意義を感じないと考える学校もあるかもしれない。コーディネータのコーディネート力に期待したい。

コミュニティスクールの課題の一つは、小学校での活動に比べて、中学校での活動が地域との関係が間接的になるために低調になることである。小学校だけでなく、中学校での活動の活性化が求められる。その核となるのは、中学生の地域づくりへの参加である。また、地域学校協働活動では、コーディネーターの存在がきわめて重要である。すでに活躍しているコーディネーターの活動経験をいかしながら、コーディネーターを増やしていくことが重要である。

地域に開かれたコミュニティスクールの構築には、地域の推進人材や地域の実情に応じた柔軟な変更や調整が必要である。様々な取組の事例を相互に把握できる情報の共有やノウハウの共有が今後重要になる。

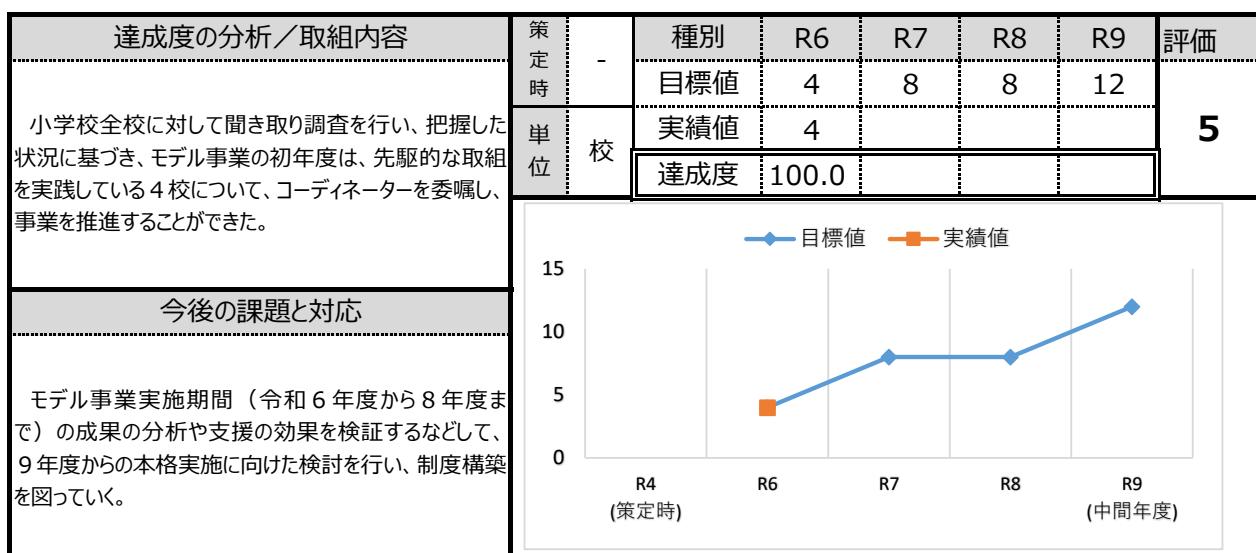
16	指標	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている小学校の割合【再掲】
----	----	---

指標の説明	香川県学習状況調査において、「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」との質問に、「よく行った」と回答した小学校の割合
担当課	学校教育課・生涯学習課



17	指標	地域と学校をつなぐ地域学校協働活動推進員（コーディネーター）を配置している小学校数
----	----	---

指標の説明	教育委員会が委嘱した「地域学校協働活動推進員（コーディネーター）」を配置している小学校数
担当課	生涯学習課



基本目標 III 家庭・地域とともに育む教育力の向上

【施策の基本方向】 3 青少年の健全育成の推進	総合評価
【具体的な施策の展開】 (1) 青少年を健全に育む環境づくりの推進 (2) 情報モラル教育の推進	B

【施策の基本方向の指標】		評価
18	市民活動団体と健全育成団体が連携できた地域数（累計）	1
19	未就学児の保護者向け「安全・安心なネット利用」講座を受講した保護者の延べ人數	5

【学識経験者等の意見】

市民活動団体と健全育成団体が連携して、何をするかが課題であり、目的と手法の精査を行う必要がある。

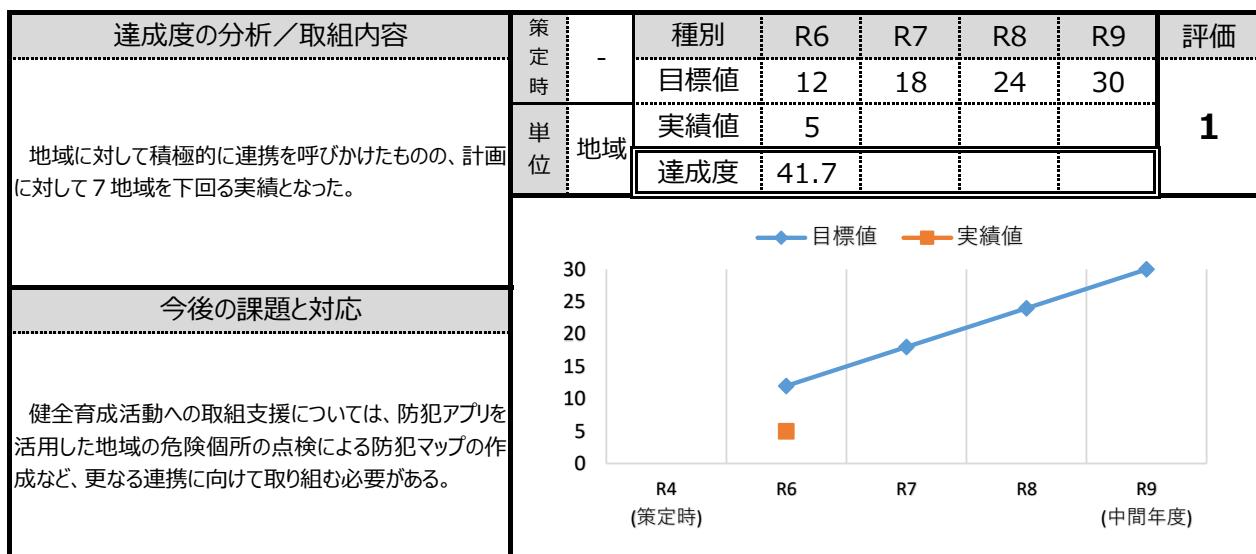
「安全・安心なネット利用」講座に関しては、PTAへの積極的なアプローチを行い、利用者数を増やしていただきたい。

青少年の健全育成も「安全・安心なネット利用」も、コミュニティスクールを含む、地域学校協働活動の一環として位置付け直す必要がある。潜在的に関心のある地域住民は数多いものの、参加のきっかけが不足している。地域住民の関心をどのように組織化するかが重要であり、まずは地域学校協働活動の中に位置付けることで、コーディネーターを中心に地域の様々な団体とのネットワーク化を図る必要がある。

地域の実情や特徴に応じた連携の工夫や幅広い年代層を視野に入れた健全育成に資する各団体間の連携が重要になると思われる。インターネット等の安全・安心な活用においては、一定の効果が期待されることから今後も継続した取組を進めていただきたい。

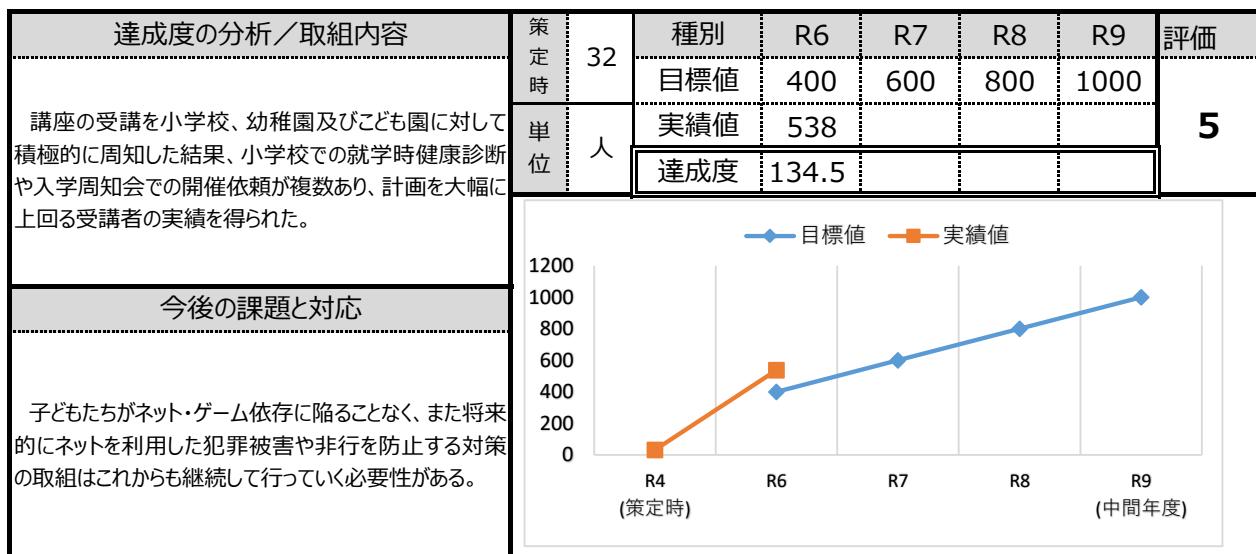
18	指標	市民活動団体と健全育成団体が連携できた地域数（累計）
----	----	----------------------------

指標の説明	防犯ボランティア団体等の市民活動団体が、地域の健全育成団体等が行う見守り活動や巡回活動と連携できた地域の延べ数
担当課	少年育成センター



19	指標	未就学児の保護者向け「安全・安心なネット利用」講座を受講した保護者の延べ人数
----	----	--

指標の説明	未就学児の保護者向け「安全・安心なネット利用」講座を受講した保護者の延べ人数
担当課	少年育成センター



基本目標 IV 生涯にわたり心豊かに学べる環境づくり

【施策の基本方向】 1 多様な学習機会の充実	総合評価
【具体的な施策の展開】 (1) 生涯学び活躍できる機会の提供 (2) 新たな手法を活用した学びの推進	C

【施策の基本方向の指標】	評価
20 生涯学習センターとコミュニティセンターの講座の参加者数	4
21 生涯学習センターのデジタル化した講座等の開催割合	1

【学識経験者等の意見】

生涯学習のニーズは増えているように感じる。子どもから高齢者・障がい者や外国人まであらゆる世代・環境の方が、気軽に学べる機会をつくる必要がある。また、学びを通じた居場所づくりにもなることから、人が集い、対面で語らいながら学ぶ場と併わせて、オンライン講座等デジタル化も促進していただきたい。

リスクリソースが求められる時代となり、潜在的なニーズは高まっていると考える。ただし難しいのは、学びにおいて、現在、ユーチューブを始めとする便利で強力なライバルが数多く存在することである。確かにデジタル化の努力も必要ではあるが、生涯学習センターやコミュニティセンターはこうした現代的な流れや傾向と差別化して、むしろ対面で交流できることの楽しさや良さを前面に打ち出す方策が必要になるのではないか。

時代の変化に応じた生涯学習機会の確保と充実が地域から求められている。今後は周知や広報の工夫を柔軟な視点から行うことが重要である。

20	指標	生涯学習センターとコミュニティセンターの講座の参加者数
----	----	-----------------------------

指標の説明	生涯学習センター及びコミュニティセンターが主催する講座の延べ参加者数
担当課	生涯学習センター

達成度の分析／取組内容		策定時	種別	R6	R7	R8	R9	評価																																																						
講座開催回数はやや増加したが、講座の参加者数についてはやや減少し、目標値を達成することはできなかった。	人			目標値	82400	87200	92000																																																							
			実績値	77976																																																										
			達成度	94.6																																																										
今後の課題と対応																																																														
講座の回数や内容を精査し、改善を加えながら、地域における生涯学習の推進を継続して実施していく。																																																														
<table border="1"> <caption>Line Chart Data (Estimated)</caption> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>目標値 (R6)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>目標値 (R7)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>実績値 (R8)</th> <th>目標値 (R9)</th> <th>実績値 (R9)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4 (策定期)</td> <td>82,400</td> <td>77,976</td> <td>87,200</td> <td>82,400</td> <td>92,000</td> <td>87,200</td> <td>95,600</td> <td>92,000</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>82,400</td> <td>77,976</td> <td>87,200</td> <td>82,400</td> <td>92,000</td> <td>87,200</td> <td>95,600</td> <td>92,000</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>87,200</td> <td>82,400</td> <td>92,000</td> <td>87,200</td> <td>95,600</td> <td>92,000</td> <td>95,600</td> <td>95,600</td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td>92,000</td> <td>92,000</td> <td>95,600</td> <td>92,000</td> <td>95,600</td> <td>95,600</td> <td>95,600</td> <td>95,600</td> </tr> <tr> <td>R9 (中間年度)</td> <td>95,600</td> <td>95,600</td> <td>95,600</td> <td>95,600</td> <td>95,600</td> <td>95,600</td> <td>95,600</td> <td>95,600</td> </tr> </tbody> </table>								期間	目標値 (R6)	実績値 (R6)	目標値 (R7)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	実績値 (R8)	目標値 (R9)	実績値 (R9)	R4 (策定期)	82,400	77,976	87,200	82,400	92,000	87,200	95,600	92,000	R6	82,400	77,976	87,200	82,400	92,000	87,200	95,600	92,000	R7	87,200	82,400	92,000	87,200	95,600	92,000	95,600	95,600	R8	92,000	92,000	95,600	92,000	95,600	95,600	95,600	95,600	R9 (中間年度)	95,600	95,600	95,600	95,600	95,600	95,600	95,600	95,600	
期間	目標値 (R6)	実績値 (R6)	目標値 (R7)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	実績値 (R8)	目標値 (R9)	実績値 (R9)																																																						
R4 (策定期)	82,400	77,976	87,200	82,400	92,000	87,200	95,600	92,000																																																						
R6	82,400	77,976	87,200	82,400	92,000	87,200	95,600	92,000																																																						
R7	87,200	82,400	92,000	87,200	95,600	92,000	95,600	95,600																																																						
R8	92,000	92,000	95,600	92,000	95,600	95,600	95,600	95,600																																																						
R9 (中間年度)	95,600	95,600	95,600	95,600	95,600	95,600	95,600	95,600																																																						

21	指標	生涯学習センターのデジタル化した講座等の開催割合
----	----	--------------------------

指標の説明	生涯学習センターで開催する講座に占めるデジタル機器を活用した講座等の割合
担当課	生涯学習センター

達成度の分析／取組内容		策定期	種別	R6	R7	R8	R9	評価																																																						
オンライン講座や、オンラインと対面を組み合わせたハイブリッド型講座のほか、講座のデジタル化や動画教材の活用などを実施することとしており、ハイブリッド型講座を1回実施したが、目標値を達成することはできなかった。	%			目標値	3.75	7.50	11.25																																																							
			実績値	0.47																																																										
			達成度	12.5																																																										
今後の課題と対応																																																														
引き続き、ハイブリッド型講座の開催増に取り組むとともに、電子黒板を活用した講座の開催に取り組む。																																																														
<table border="1"> <caption>Line Chart Data (Estimated)</caption> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>目標値 (R6)</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>目標値 (R7)</th> <th>実績値 (R7)</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>実績値 (R8)</th> <th>目標値 (R9)</th> <th>実績値 (R9)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4 (策定期)</td> <td>3.75</td> <td>0.47</td> <td>7.50</td> <td>0.47</td> <td>11.25</td> <td>0.47</td> <td>15</td> <td>0.47</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>3.75</td> <td>0.47</td> <td>7.50</td> <td>0.47</td> <td>11.25</td> <td>0.47</td> <td>15</td> <td>0.47</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>7.50</td> <td>0.47</td> <td>11.25</td> <td>0.47</td> <td>15</td> <td>0.47</td> <td>15</td> <td>0.47</td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td>11.25</td> <td>0.47</td> <td>15</td> <td>0.47</td> <td>15</td> <td>0.47</td> <td>15</td> <td>0.47</td> </tr> <tr> <td>R9 (中間年度)</td> <td>15</td> <td>0.47</td> <td>15</td> <td>0.47</td> <td>15</td> <td>0.47</td> <td>15</td> <td>0.47</td> </tr> </tbody> </table>								期間	目標値 (R6)	実績値 (R6)	目標値 (R7)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	実績値 (R8)	目標値 (R9)	実績値 (R9)	R4 (策定期)	3.75	0.47	7.50	0.47	11.25	0.47	15	0.47	R6	3.75	0.47	7.50	0.47	11.25	0.47	15	0.47	R7	7.50	0.47	11.25	0.47	15	0.47	15	0.47	R8	11.25	0.47	15	0.47	15	0.47	15	0.47	R9 (中間年度)	15	0.47	15	0.47	15	0.47	15	0.47	
期間	目標値 (R6)	実績値 (R6)	目標値 (R7)	実績値 (R7)	目標値 (R8)	実績値 (R8)	目標値 (R9)	実績値 (R9)																																																						
R4 (策定期)	3.75	0.47	7.50	0.47	11.25	0.47	15	0.47																																																						
R6	3.75	0.47	7.50	0.47	11.25	0.47	15	0.47																																																						
R7	7.50	0.47	11.25	0.47	15	0.47	15	0.47																																																						
R8	11.25	0.47	15	0.47	15	0.47	15	0.47																																																						
R9 (中間年度)	15	0.47	15	0.47	15	0.47	15	0.47																																																						

基本目標 IV 生涯にわたり心豊かに学べる環境づくり

【施策の基本方向】 2 生涯学習施設・機能の充実	総合評価
【具体的な施策の展開】 (1) 学習施設・機能の充実	B

【施策の基本方向の指標】	評価
22 市民一人当たりの図書館資料の貸出冊数	3

【学識経験者等の意見】

親子で訪れ親子で語りあい、親子で学ぶ図書館づくりに取り組んでいただきたい。

市民への本の貸出とともに、各学校・園との連携をより一層、進めてほしい。千葉県市川市などの先進的な地域では、情報のネットワーク、人のネットワーク、物流のネットワークが完備されることで、学校図書館を活用した授業づくりが精力的に進められている事例がある。地域の図書館と学校図書館が連携し、図書の相互貸借や共同企画の実施等を行うことで、大人から子どもまで利用者のニーズに応える魅力的な図書館を実現してほしい。

図書館資料の充実やアクセシビリティの向上は重要な課題であり、地域の図書館資料の有効活用を期待する市民への情報発信等を更に充実させることが望まれる。

22	指標	市民一人当たりの図書館資料の貸出冊数
----	----	--------------------

指標の説明	図書館において、市民一人が1年間に借りる図書館資料（電子図書等を含む）の冊数
担当課	中央図書館

達成度の分析／取組内容		策定時	5.9	種別	R6	R7	R8	R9	評価																	
目標値	6.1				4.2	4.2	6.9																			
単位	冊	実績値	5.2					3																		
		達成度	85.2																							
図書館機能の充実を始め、読書活動推進につながる行事の実施や情報発信に努めたものの、貸出冊数は目標を達成することができなかった。																										
今後の課題と対応																										
蔵書の充実など、サービスの向上や各館での居心地の良い空間づくりに努め、市民の読書意欲・学習ニーズ等に応えていく。																										
<table border="1"> <caption>Line Chart Data</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4</td> <td>6.1</td> <td>5.2</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>4.2</td> <td>5.4</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>4.2</td> <td>4.3</td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td>4.2</td> <td>4.4</td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td>6.9</td> <td>6.8</td> </tr> </tbody> </table>									年度	目標値	実績値	R4	6.1	5.2	R6	4.2	5.4	R7	4.2	4.3	R8	4.2	4.4	R9	6.9	6.8
年度	目標値	実績値																								
R4	6.1	5.2																								
R6	4.2	5.4																								
R7	4.2	4.3																								
R8	4.2	4.4																								
R9	6.9	6.8																								

◎ 項目（指標）一覧

No	担当課	項目（指標）	実績値	目標値					達成度	評価
			R6	R6	R7	R8	R9			
I－1 確かな学力と個性を伸ばす教育の推進										
1-1	学校教育課	学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合（小学5年生）	75.6	79.0	79.0	79.0	79.0	95.7	4	
1-2	学校教育課	学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合（中学2年生）	77.1	77.0	77.0	77.0	77.0	100.1	5	
2-1	ICT教育推進室	授業において、一人一台端末などのICT機器を週3回以上活用している児童生徒の割合（小学6年生）	45.9	58.0	72.0	86.0	100	79.1	3	
2-2	ICT教育推進室	授業において、一人一台端末などのICT機器を週3回以上活用している児童生徒の割合（中学3年生）	32.9	43.0	62.0	81.0	100	76.5	3	
I－2 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進										
3-1	学校教育課 人権教育課	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合（小学5年生）	93.7	94.5	94.5	94.5	94.5	99.2	4	
3-2	学校教育課 人権教育課	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の割合（中学2年生）	94.1	94.0	94.0	94.0	94.0	100.1	5	
4	保健体育課	児童が体育の授業以外で運動する時間（1日当たり）（小学5年生）	57.1	62	63	64	65	92.1	4	
I－3 ふるさとの未来を支える教育の推進										
5	高松第一高等学校	投票することに前向きな生徒の割合（高校2年生）	83.6	81.0	81.0	81.0	81.0	103.2	5	
6-1	学校教育課	今住んでいる地域について関心がある児童生徒の割合（小学5年生）	68.5	67.0	67.0	67.0	67.0	102.2	5	
6-2	学校教育課	今住んでいる地域について関心がある児童生徒の割合（中学2年生）	40.2	43.0	43.0	43.0	43.0	93.5	4	
II－1 学校教育環境の整備・充実										
7	学校施設整備室 保健体育課	学校教育施設の老朽化対策進捗率	15.8	13.7	25.8	36.3	50.0	115.3	5	
8	ICT教育推進室	電子黒板の整備率	77.5	75.0	80.0	100	100	103.3	5	
II－2 多様な教育ニーズに対応した教育機能の充実										
9-1	総合教育センター	授業において、個別の配慮が必要な児童生徒に対して特性に応じた指導を行っている学校の割合（小学校）	100	100	100	100	100	100	5	
9-2	総合教育センター	授業において、個別の配慮が必要な児童生徒に対して特性に応じた指導を行っている学校の割合（中学校）	100	100	100	100	100	100	5	
10-1	総合教育センター	90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている児童生徒の割合（小学生）	73.0	80.0	80.0	80.0	80.0	91.3	4	
10-2	総合教育センター	90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、専門家又は専門機関等で相談・指導を受けている児童生徒の割合（中学生）	64.1	75.0	75.0	75.0	75.0	85.5	3	
II－3 教員の資質向上と教育指導体制の充実										
11-1	総合教育センター	教員が自らの専門性を高めるため、研修会等に定期的・継続的に参加している学校の割合（小学校）	100	92.0	92.0	92.0	92.0	108.7	5	
11-2	総合教育センター	教員が自らの専門性を高めるため、研修会等に定期的・継続的に参加している学校の割合（中学校）	78.3	89.0	89.0	89.0	89.0	88.0	3	
12	学校教育課	教職員の年次休暇の平均年間取得日数	15.8	15.0	15.0	15.0	15.0	105.3	5	
II－4 安全で安心な教育環境の充実										
13-1	保健体育課	実践的な避難訓練を行っている学校の割合（小学校）	89.4	73.9	77.6	81.3	85.0	121.0	5	
13-2	保健体育課	実践的な避難訓練を行っている学校の割合（中学校）	81.8	78.0	82.0	86.0	90.0	104.9	5	
III－1 家庭・地域の教育力の向上										
14	生涯学習課	子ども会リーダー研修会に参加して、リーダーとしての自覚が高まった小学生の割合	96.2	100	100	100	100	96.2	4	
15	学校教育課 生涯学習課	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている小学校の割合	31.9	46.8	51.1	55.3	59.6	68.2	2	
III－2 学校・家庭・地域の連携・協働の推進										
16	学校教育課 生涯学習課	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行っている小学校の割合【再掲】	31.9	46.8	51.1	55.3	59.6	68.2	2	
17	生涯学習課	地域と学校をつなぐ地域学校協働活動推進員（コーディネーター）を配置している小学校数	4	4	8	8	12	100	5	
III－3 青少年の健全育成の推進										
18	少年育成センター	市民活動団体と健全育成団体が連携できた地域数（累計）	5	12	18	24	30	41.7	1	
19	少年育成センター	未就学児の保護者向け「安全・安心なネット利用」講座を受講した保護者の延べ人數	538	400	600	800	1000	134.5	5	
IV－1 多様な学習機会の充実										
20	生涯学習センター	生涯学習センターとコミュニティセンターの講座の参加者数	77976	82400	87200	92000	95600	94.6	4	
21	生涯学習センター	生涯学習センターのデジタル化した講座等の開催割合	0.47	3.75	7.50	11.25	15	12.5	1	
IV－2 生涯学習施設・機能の充実										
22	中央図書館	市民一人当たりの図書館資料の貸出冊数	5.2	6.1	4.2	4.2	6.9	85.2	3	